

## 各地の民話・伝承 「高島民話子妊石伝説」

語り部 河田 善治郎

脚本 藪田 徳蔵

昔々の、神武さんの伝説よりも、もつと昔から語り伝えられた高島の民話です。

高島の西海岸には二つの美しい砂浜があります。二つの砂浜は突き出た岬のような小山で仕切られて窓の端と言います。

南の浜を本窓石、北の浜を北窓石と呼びます。本窓石には魔亜羅と言う力の強い狡い大男が住んでいました。北窓石には采女と言う心のやさしい力の強い大女と猿の猿六と言う頭の良い小男が住んでいました。

はるか沖には魚の群れがいつぱい泳いでいますが、北窓石には回遊してきません。「猿六や、あの魚の群れを何とか引き寄せる術はないものだろうか」。その頃は、向いの明地島は陸続きでした。猿六は水路を掘って

瀬戸を造ることを提案しました。

力を合わせて二人は一生懸命働き、やつと瀬戸が出来ました。満潮とともに、沖にいた魚がどっと押し寄せてきました。豊漁に苦勞の甲斐があったことを喜び合いました。

しかし、ある日突然魚がこなくなりました。調べてみると、なんと魔亜羅が岬の窓の端の小山にトンネルをあけて陸地から海に行けるようにして、回遊してくる魚をトンネルの外の大岩に乗って、全部横取りしています。

さあ大変、漁業権をめぐる争いでしたが、自分の土地にきた魚は自分のものと、魔亜羅は聞き入れません。そこで猿六は、この大岩を、あの西の山の頂きに乗せたものが権利を取ることで話を決めました。魔亜

羅は大喜び、もう勝ったも同然です。

力が強くて女のは負けな自信がありました。大岩を抱えて一気に急な坂を駆け下りましたが、八合目付近で力尽き大岩は浜まで転げ落ちてしまいました。

今度は采女の番です。大女の采女は身重の身体でしたが、今までの苦勞を思えば負けられません。岩を抱えると浜辺を南へ廻り、舟堀のほうから緩やかなコースを選び、一歩一歩大石を抱えてとうとう山頂付近までたどりつきました。「やっこらし

よ」と大石をおいた途端ポロンと可愛い姫が生まれました。それがすぐ西隣にあつて舟堀を見下ろす孫姫石です。処女石とも呼ばれそれはそれは可愛い姫石です。  
勝った采女達は魔亜羅にこの岩に

上つてもらって魚の群れの見張り番

をしてもらいました。北窓石と明地島の間瀬戸をえんろく瀬戸と呼びますが猿六苦勞の瀬戸が訛ったそう。今もこの瀬戸は絶好の釣場として年中釣り人が絶えません。

魔亜羅があけたトンネルごしに見る海は美しく昔の歌人達の和歌にも読まれ美しいところです。時は移り、采女は精魂出し尽くして、抱え上げた大岩の精となり美しい女神石に化身して、高島の西の海人や女人を護りました。

心改めた魔亜羅は、高島の東南の海辺に立つて東を護り、その場所は金光の地名がつけました。

子妊石伝説

高島観光協会